

提案趣旨説明書

<作品タイトル>

〈地〉のデザインとマネジメントで再生する真駒内のバイタリティ

<提案の趣旨>

■趣旨

コンペティションにおける提案の着眼として「ハード」と「ソフト」があるとき、どちらか一方が優位な視点になるものではない。特に「まちづくり」を対象とした場合には、よりリアリティのあるバランスが重要であると考え、その提案が実現できるチームを構成した。

一般に「ハード」とは、インフラストラクチャーや施設、各種の建築物の新設や新築・改築などの整備を表し、「ソフト」は組織や仕組み（スキーム）、イベントなどの活性化事業を指す。真駒内に限らず、少子高齢化や生産人口の減少を伴う地域の「縮退」への対応策を考える場合、「ハード」と「ソフト」それぞれが呼応し合い、相乗効果を生む方法論であることが不可欠である。そうでなければ、まちづくりに導入される手法が「バイタリティ（生命力）」の息吹を盛り上げる力とはなり得ない。

本提案では、〈地〉をテーマの中心に据え、〈地〉のデザインとマネジメントの両面から再構築することを目指している。〈地〉とは施設そのものではなく、その施設を含んだ〈下地〉を表し、その下地部分のネットワーク化、リデザイン、それを実行するスキーム、組織を検証し提案するものである。

近隣住区論に基づくニュータウンの計画実践の先駆けであった「真駒内」。その思想や目標、理論と調整を正確に分析し、オリンピックやその他の内的・外的要因で変革していった街を、実行力を伴った具体的な手法で再生することが本提案の趣旨である。

■構成（パネルレイアウト）

